

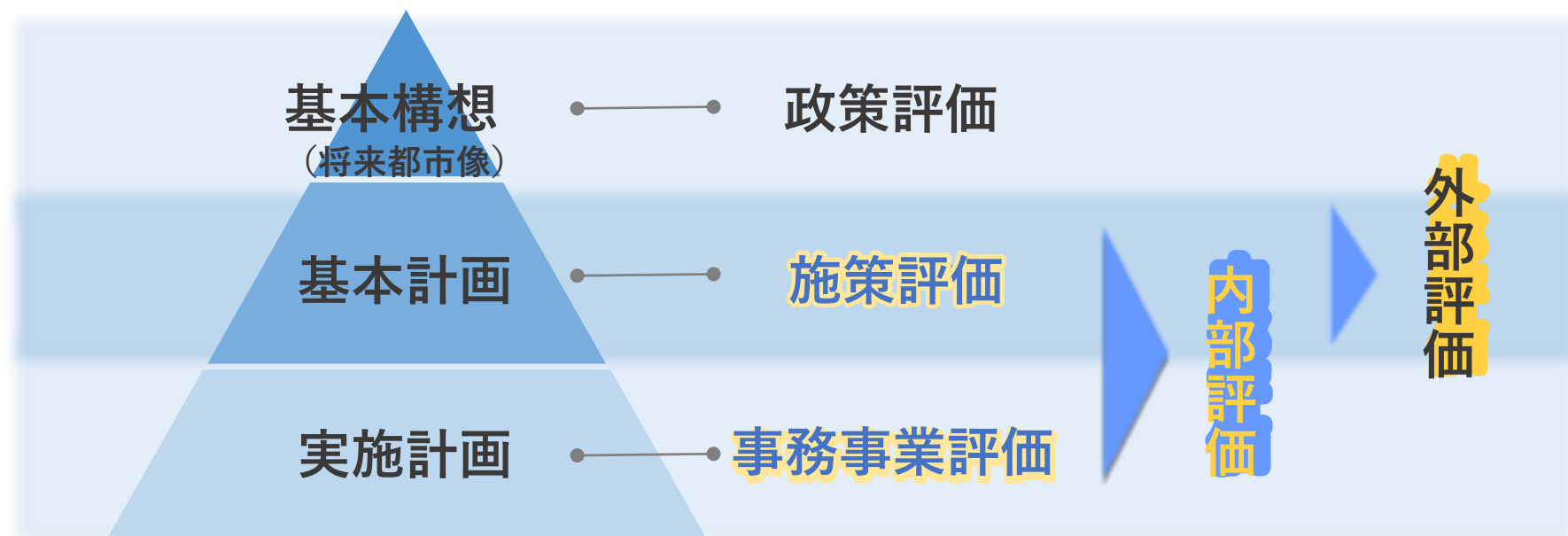
新座市政策評価委員会（令和 6 年度第 2 回）資料

行政評価制度の見直しについて

令和7年 2 月 1 2 日（水）

1 行政評価の全体像－基本的な枠組み－

- 「事務事業評価」及び「施策評価」で構成
- 「施策評価」については、内部評価実施後、外部評価を実施



2 評価の対象－令和5年度実施事業（令和6年度行政評価）－

内部評価

基本計画に位置づけた
53施策、KPI 82項目

施策評価

実施計画に位置づけた
全事業（526事業）

事務事業評価

外部評価

市が実施した「施策評価」の妥当性を検証

審査対象施策の選定の視点（いずれかに該当するもの）

- ①計画策定後の社会経済状況の変化を踏まえ、方向性の確認が必要な施策
- ②施策の達成状況等の確認が必要な施策（進捗に遅れのある成果指標等に着目）
- ③現年度（評価実施年度）・前年度（評価対象年度）に市が重点的に取組を進めており、委員会で審議する必要性の高い施策
- ④その他、外部有識者及び市民の目線で議論することが特に有意義であると考えられる施策

審査対象とした4施策

基本政策2 生きる力と生きがい
を育むまち【教育文化】

第2節 学校教育

施策1 教育内容の充実

施策2 教育活動の質の向上

施策3 教育環境の整備・充実

基本政策5 安全・安心を実感できる
まち【安全安心】

第1節 危機管理

施策1 災害に強いまちづくりの推進

(参考) 評価方法等に関する意見

令和6年度第1回新座市政策評価委員会

- 施策評価シートの中に、課題意識を共有できるような記載と実際の取組内容についての具体的な記載を加えてほしい。特に「教育内容の充実」においては、市とのやり取りの中で不登校児に対して様々な取組が行われていることが分かったが、評価シート中にも記載するよう改善すること。
- 「災害に強いまちづくりの推進について」の災害発生時における情報の伝達の課題について、市から事前質問の回答として述べられたとおり具体的に取り組まれているようだが、防災は市民の関心が高い分野であるため、施策評価シートにも具体的な取組を記載すべきである。
- K P Iの達成度と質的な評価である施策の進捗状況と全体的な評価である施策の達成状況にズレが生じることについて、判断基準を整理しつつ、客観的に分かりやすいよう説明を追加すべきである。
- K P Iの達成度と施策の進捗状況の評価を一つのマトリックス的に評価すると、K P Iと現場の声を総じて評価できるものと考えられる。
- 施策評価シートの構成について、K P Iを施策領域ごとではなく、施策ごとに紐づけること。
- K P I項目「老朽化対策を実施した校舎数」の実績について、実施状況に対する誤解が生じないように補足を追記すること。
- 全般的に形式的・総花的な記述が多いと感じた。例えば「今後の方向性」の欄などで、「喫緊の課題」や「重要な課題」などを挙げてそれに対してどのように対処していくかの方向性を記述するなど、行政の内部・関係者・市民それぞれにとってより有用な内容やメッセージを盛り込んでいくなどの工夫をすること。
- 外部評価における意見が、次年度にきちんと反映されることを期待する。

(参考) 令和 6 年度行政評価に関する職員アンケート結果

第 1 章 職員アンケートの調査概要

1 調査の趣旨・目的

本市では、令和 5 年度(2023 年度)からスタートした第 5 次新座市総合計画について、前期基本計画に位置付けた K P I (重要業績評価指標) 8 2 項目 及び 5 3 施策 を 施策評価 として、また、実施計画に位置付けた 5 2 6 事業 を 事務事業評価 として、令和 6 年度に内部評価を行ったところである。

行政評価制度は、業務手順を常に見直す P D C A サイクルの定着化を図るとともに、サービス水準の向上と行政事務の効率化を進め、質の高い行財政運営の実現を目指すことなどをその目的とするものである。

しかしながら、評価を行う職員にとっては、評価作業が大きな事務負担になるばかりでなく、作業に見合った成果が得られないなど、行政評価制度には課題がある状況である。

そこで、次年度以降の行政評価に向けて、職員の認知度や改善すべき点等を把握するために、職員アンケートを実施するものである。

2 調査の対象職員

各部及び危機管理室（危機管理監を含む。）に所属する全職員

3 調査の実施期間

令和 6 年 1 0 月 1 日（火）～同月 1 8 日（金）

4 調査の方法

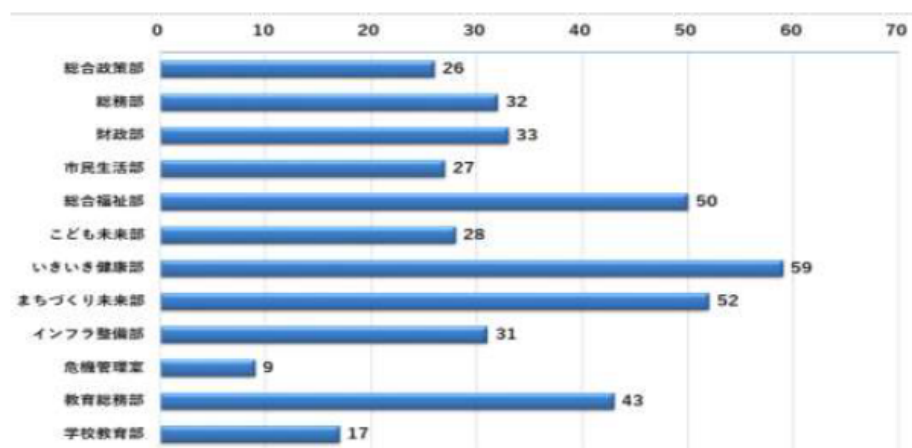
電子申請システムによる

(参考) 令和6年度行政評価に関する職員アンケート結果

第2章 職員アンケートの調査結果

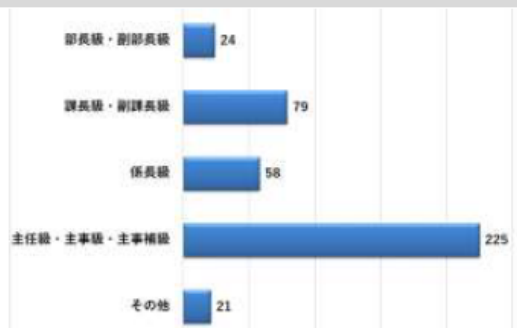
Q1. 御自身が所属する部を選択してください（兼務の場合はメインの方を選択してください。）。

回答	回答数
総合政策部	26
総務部	32
財政部	33
市民生活部	27
総合福祉部	50
こども未来部	28
いきいき健康部	59
まちづくり未来部	52
インフラ整備部	31
危機管理室	9
教育総務部	43
学校教育部	17
合計	407



Q2. 御自身の役職を選択してください（兼務の場合は上位の役職を選択してください。）。

回答	回答数
部長級・副部長級	24
課長級・副課長級	79
係長級	58
主任級・主事級・主事補級	225
その他	21
合計	407



（参考）令和6年度行政評価に関する職員アンケート結果

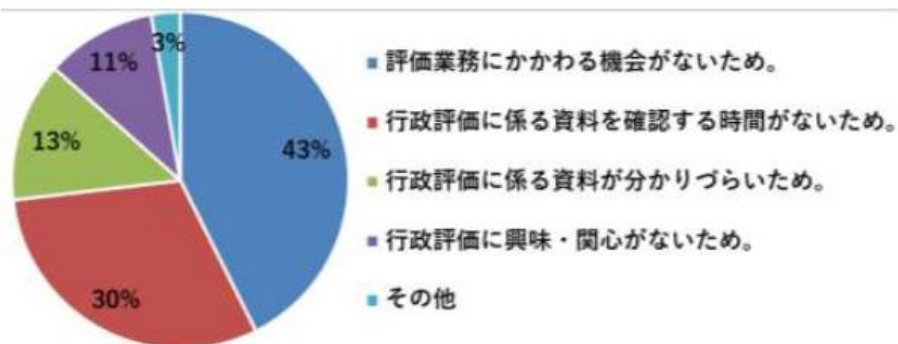
Q 3. 本市の行政評価の概要や、御自身が担当する業務における評価内容を把握していますか。

回答	回答数	比率
よく把握している。	29	7%
おおむね把握している。	235	58%
あまり把握していない。	99	24%
ほとんど把握していない。	44	11%
合計	407	100%



Q 4. 行政評価の概要等を把握していない理由として当てはまるものを全て選択してください（複数選択可）。

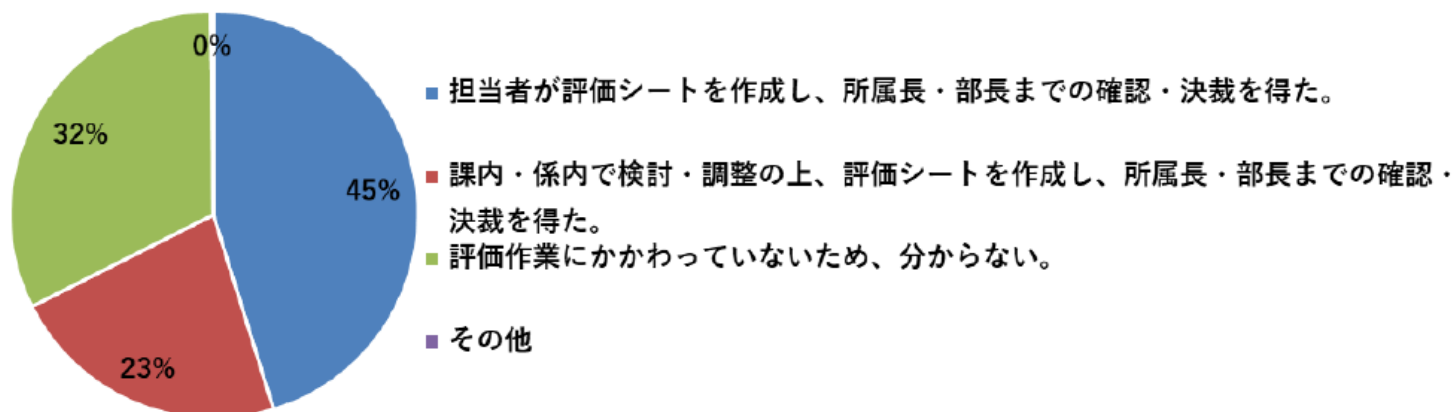
回答	回答数	比率
評価業務にかかわる機会がないため。	92	43%
行政評価に係る資料を確認する時間がないため。	66	30%
行政評価に係る資料が分かりづらいため。	29	13%
行政評価に興味・関心がないため。	23	11%
その他	6	3%
合計	216	100%



(参考) 令和6年度行政評価に関する職員アンケート結果

Q5. 今年度の評価作業をどのように進めましたか。最も当てはまるものを選択してください。

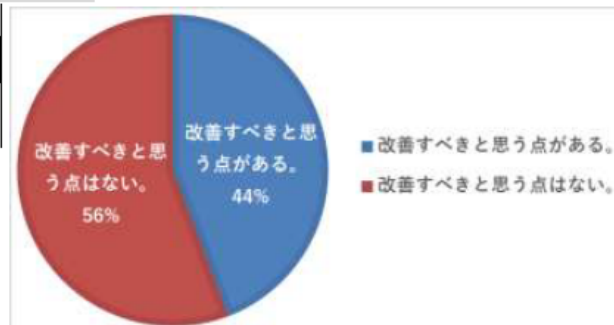
回答	回答数	比率
担当者が評価シートを作成し、所属長・部長までの確認・決裁を得た。	184	45%
課内・係内で検討・調整の上、評価シートを作成し、所属長・部長までの確認・決裁を得た。	91	23%
評価作業にかかわっていないため、分からない。	131	32%
その他	1	0%
合計	407	100%



(参考) 令和6年度行政評価に関する職員アンケート結果

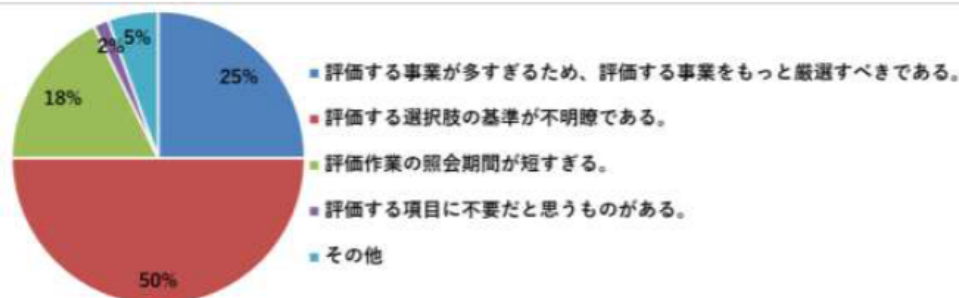
Q 6. 今年度の評価作業を振り返ってみて、改善すべきと思う点がありますか。

回答	回答数	比率
改善すべきと思う点がある。	122	44%
改善すべきと思う点はない。	154	56%
合計	276	100%



Q 7. 改善すべきと思う点はどんな点ですか（複数選択可）。

回答	回答数	比率
評価する事業が多すぎるため、評価する事業をもっと厳選すべきである。	45	25%
評価する選択肢の基準が不明瞭である。	90	50%
評価作業の照会期間が短すぎる。	32	18%
評価する項目に不要だと思うものがある。	3	2%
その他	10	5%
合計	180	100%



3 行政評価の見直し案－令和6年度 実施事業（令和7年度 行政評価）－

内部評価

施策評価シートの
記述の充実化

施策評価

実施計画に位置づけた
事業から評価事業を厳選

事務事業評価

外部評価

市が実施した「施策評価」の妥当性を検証

評価基準の明確化
チェック体制の強化

対象施策の選定の視点（いずれかに該当するもの）

①経済状況の変化を踏まえ、方向性の確認が必要な施策
②国の政策や本市の政策の方向性の確認が必要な施策（進捗に遅れのある成果指標等に着目）

③現年度（評価実施年度）・前年度（評価対象年度）に市が重点的に取組を進めており、委員会で審議する必要性の高い施策

④その他、外部有識者及び市民の目線で議論することが特に有意義であると考えられる施策

職員の事務負担の軽減
評価の精度の向上

政策評価委員会

- 審査対象の件数を再検討
- 評価施策の事前説明
- 配布資料の見直し

(参考) 令和6年度施策評価シート

第2章 基本政策⑨ 生きる力と生きがいを育むまち【教育文化】

第2節 学校教育

施策1 教育内容の充実

基本計画
掲載頁 78～81

施策の 達成状況	B	A：順調に推移した B：おおむね順調に推移 C：進捗が遅れた	特別支援学級を市内全小・中学校に設置したほか、通級指導教室を3校増設し、特別支援教育の充実に寄与した。 チャルワーカーや相談員を設置し、児童生徒の相談支援を強化した。 学力状況調査の結果やプログラミング教材の活用等により、多様なカリキュラムによる授業改善を実施し	客観的に 評価基準がわかりにくい	相談、不登校の割合は増加傾向 県学力・学習状況調査における、 授業改善等の検討が必要である。	外部評価として 審査してほしい内容が わかりにくい	必要であ いずれも低下
今後の 方向性	I	I：現状のまま継続 II：一部見直し等の余地がある III：抜本的な見直し等が必要	成果・課題を踏まえた 今後の取組方針	引き続き、学力の向上及び児童生徒の心身の健やかな発達 等による多様な教育機会の創出に注力する。 また、特別な支援や個別の相談支援等を必要とする児童生徒について、多様化するニーズを見極め、適切に対応していく。			に体験活動

【参考】施策領域ごとのKPI※1（所要業績評価指標）

項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	令和5年度時点 達成度※2	所管課
主体的・対話的で深い学びの実施					平均4.1pまで上げる	B	教育支援課
県学力・学習状況調査における、学力レベルを伸ばした児童生徒の割合と学力の伸び率	1年 70.6 2.0 2年 57.0 1.0 3年 67.6 2.0	1年 63.7 1.5 2年 49.5 0.6 3年 50.9 0.5			《小学校》 平均80%の児童を伸ばし かつ学力レベルを平均2.6に上げる 《中学校》 平均70%の生徒を伸ばし かつ学力レベルを平均2.0に上げる	C	教育支援課

※1 KPIは「施策」ではなく「施策領域」ごとに設定しているものです。

※2 【達成状況評価について】 A：目標を上回るペースの指標値 B：目標値を達成するペースの指標値 C：やや遅れ気味

主な施策展開の進捗状況

(1) 確かな学力の育成	施策の進捗状況	評価の説明	所管課
児童生徒の基礎学力の定着を図るため、個に応じたきめ細かな指導体制を充実させるとともに、学力向上と正の相関がある非認知能力を高めます。また、自ら学び、自ら考え、課題を解決する力を育成するために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を推進します。	B（おおむね順調）	県学力状況調査の結果をもとに、各学校での成果と課題を把握している。調査結果のデータの活用の方等の研修も行うことで解決学習や、主体的・対話的で深い学びに向かう授業の推進、それに基づいた指導や提案をする等して授業改善に努めている。	教育支援課
児童生徒一人一人が学力の伸びを実感し、学ぶ楽しさを味わうことで、児童生徒の健やかな心や、主体的に学習に向かう態度を育みます。	B（おおむね順調）	上記の取組や、各学校の特徴をいかした授業改善、人材活用により、各学校で協働的な学びの実現化に努めている。	教育支援課

総花的であり
具体的な取組の
記載が不足している

4 施策評価シートの見直し案

No. 1 子ども・子育て支援の充実					基本計画掲載頁	58～60				
総合評価	B：おおむね順調に進捗した	今後の方向性	I：現状のまま継続	KPIの評価数	A	0	B	2	C	1
				施策展開の評価数	A		B		C	0
				事務事業評価の実施状況	A		B		C	
重要課題	1 ○○○○…………… 2 ○○○○……………			重要課題への対応方針	1 ○○○○…………… 2 ○○○○……………					

参考として、施策に関連する評価数を追加

外部評価での審査のポイント

施策のKPI（重要業績評価指標）

【達成度の基準】 A：目標を上回るペースの指標値 B：目標値を達成するペースの指標値 C：目標を下回る指標値

項目	現状値 (測定時点)	令和5年度	令和6年度	令和9年度	目標値	令和6年度時点 達成度 ^{※2}	所管課
子育て支援センター利用者数	63,013人	56,005人			84,760人	C	こども支援課
保育所等の待機児童数	5人	5人			0人	B	保育課

施策領域ごとではなく
施策ごとにKPIを記載

主な施策展開の進捗状況（定性的な評価）

【評価の基準】 A：想定以上に進捗した B：順調に進捗した C：進捗が遅れた

(1) こども基本法の基本理念に基づいた施策の推進	評価	成果／評価「C」とした場合、課題とそ	課
1 子どもに関わる施策の推進に当たっては、子どもの意見表明・参画の機会の確保を図り、意見を尊重し、子どもの最善の利益を優先して考慮するよう努めます。	B		後課

具体的な取組
の記載を充実

3 行政評価の見直し案－令和6年度 実施事業（令和7年度 行政評価）－

内部評価

施策評価シートの
記述の充実化

施策評価

実施計画に位置づけた
事業から評価事業を厳選

事務事業評価

外部評価

市が実施した「施策評価」の妥当性を検証

評価基準の明確化
チェック体制の強化

対象施策の選定の視点（いずれかに該当するもの）

①経済状況の変化を踏まえ、方向性の確認が必要な施策
②国の政策や本市の政策の方向性の確認が必要な施策（進捗に遅れのある成果指標等に着目）

③現年度（評価実施年度）・前年度（評価対象年度）に市が重点的に取組を進めており、委員会で審議する必要性の高い施策

④その他、外部有識者及び市民の目線で議論することが特に有意義であると考えられる施策

職員の事務負担の軽減
評価の精度の向上

政策評価委員会

- 審査対象の件数を再検討
- 評価施策の事前説明
- 配布資料の見直し

5 行政評価のスケジュール

● 政策評価委員会関係

